

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670300658
法人名	医療法人 昌成会
事業所名	グループホーム和音
所在地	鹿屋市大浦町14169-17 (電話) 0994-41-3778
自己評価作成日	令和3年12月14日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は山間部にあり野鳥、四季折々の草木に囲まれ介護(森林浴や散歩等)に取り入れている。
 ・利用者様の馴染まれた山菜取りや更に畑には季節の野菜を栽培し収穫した野菜を提供していたが猪出現、収穫減、管理が困難になってきている。
 ・医療法人が運営している施設で協力病院として月2回の訪問診療と医療連携(和音看護師)を導入している
 ・近隣の方にはホーム案内の看板を立てさせてもらい、町内会の清掃作業にも参加させてもらう計らいもして頂いている。3B体操の講師として近隣の方に来ていただいている。(コロナウイルス感染症予防為現在は、行われていない。)
 ・日課として11時からと16時に30分程度リハ体操、脳トレを実施しレベル低下、筋力低下を防止している。15時廊下歩行訓練(10分程度)も行っている。
 ・6月には紫陽花が庭園いっぱい咲き交流の場としている(現在はコロナウイルス感染症予防為行っていない)

母体医療機関による訪問診療を受けられる安心感から、現在利用者全員がかかりつけ医として診てもらっており、他科受診に関しては主治医による紹介状を基に家族と職員が協力して受診を支援している。医師の助言や処方薬について等、受診の内容を「申し送りノート」に記入し、申し送り時のほか、状況に応じて都度情報を共有している。また、毎月のミーティングに医師が出席しカンファレンスに参加しているため、医師と職員の連携が密に取れると共にケアプラン作成時には「サービス担当者による照会」文書を医師に記入してもらいケアプランに反映させている。

食事が楽しみとなるよう調理の下ごしらえや味見、おかずの盛り付け等の一連の準備に利用者が参加している。また予め献立表を作成しているが、利用者の食べたいもののリクエストがあれば随時献立を変更して提供するなど、家庭的な雰囲気大切にしながら食事を楽しむことができている。コロナ禍のため外食は難しいが、そば作りや餅つき、おせち料理や切り干し大根、梅干し作り等、四季を感じながらの調理や行事食に工夫を凝らしており利用者に喜ばれている。

利用者や家族の気持ちに寄り添えるよう「プライバシー保護マニュアル」を作成し、職員間で内容を話し合い共有する機会を設けている。共に生活する中での気づきや発見については、職員が自由に記入することができる「申し送りノート」に記録し、申し送り時や職員会議等で情報を共有し支援につなげている。

自己評価	項目	自己評価		
		実施状況		
I. 理念に基づく運営				
1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は目のつくところに提示して、理念を確認しながら取り組み毎朝復唱を行っている。殆どの入居者様も覚えておられる	理念にある「その人らしく」を大切にしながら日々の支援につなげると共に運営推進会議や外部評価、年に1回実施する自己評価の際に理念が実践できているかを振り返る機会を設けている。	
2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板や有線放送等で行事等の情報を得ている、運営推進会議に出席を依頼し、様々な意見交換を行っている。清掃作業にも参加の計らいや猪退治も知恵を頂いている	これまでは中学生の職場体験など教育機関とも積極的に交流していたがコロナ禍の現在中止が続いている。また、地域行事に関しても中止が続いているが、近所の方から野菜のお裾分けをもらうなどの関係はこれまで通り続いている。	
3	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	施設機能を活かして解放の準備はしているが、生かし切れていない。近隣住民の方々との交流を町内会長にコロナウイルス感染症収束後は更にお願したい。		
4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を行い、運営状況、活動報告を行っていたが、コロナウイルス感染症予防の為資料で現状報告し文書口頭で質問や要望を頂き適切に対応し取り組んでいる。	コロナ禍で会議の開催は困難なため現在は書面に代えて対応している。利用者の意見や行事の感想などを運営会議録にまとめ、町内会長や自治会長に提出する際に意見をもらっている。また行政には議事録を提出することで報告としている。	

自己評価	項目	自己評価		
		実施状況		
5	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>以前は運営推進会議などで高齢福祉課の職員の方や町内会長、民生委員と話をする機会を活かし、調査報告及び事業運営の報告など施設として積極的に連携し協力、理解を頂いている</p>	<p>介護保険関係の書類提出や運営推進会議録提出時等に行政に出向いており、その際に事業所の取り組みや利用者の暮らしぶり等を伝えている。また地域包括支援センターや福祉事務所とも連携を図りながら協力関係を築いている。</p>	
6	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎月1回安全管理委員会及び身体拘束委員会を開催し、入居者様への安全及び身体拘束廃止に努めている。また、職員全員が入居者様への尊厳を大切にしている。コロナウイルス感染予防の為玄関に面会制限の張り紙をしている。</p>	<p>毎月のミーティング時に「身体拘束・安全管理委員会」による意見交換や勉強会を実施するほか、年に数回、年間研修計画に組み込み拘束のないケアについて話し合っている。また「ちょっと待って」等、行動を制限させてしまう声掛けを確認した場合は職員間で注意し合い、方言についても馴れ合いにならないよう言葉使いに気を配っている。</p>	
7	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎月1回安全管理委員会及び身体拘束委員会を開催し、入居者様への安全及び身体拘束廃止に努めている。また、職員全員が入居者様への尊厳を大切にしている。包括主催の研修（ズームによる）全員参加する。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>最近、権利擁護及び成年後見制度について外部研修で習う機会がなかったが、以前、終括セミナー相続法改正等の研修に参加した資料で活用できるようにしている。</p>		

自己評価	項目	自己評価	
		実施状況	
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に関しては、十分に時間をかけ説明を行っている。契約後にも疑問点がある場合には、常に丁寧に対応し納得が出来るまでは説明を実施している。</p>	
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会を毎年2回実施し、運営状況等説明を行っていたがコロナウイルス感染症予防の為現在は、書面で報告し電話等で対応している。意見、苦情箱は玄関に設置している。第三者委員会などの案内している。</p>	<p>家族からの電話や面会時に意見や要望を尋ねるほか、毎月の「和音だより」の送付により利用者の様子を報告することで感想をもらう機会につなげている。またコロナワクチン接種の案内やアンケート、同意書を作り家族と取り交わす等、変化する状況に対応している。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月一回部署会を行い、職員からの意見を反映している。それを元に計画作成、改善事項を確認している。また、ミーティングを開催し、施設長との意見交換の場も作り、意見を反映している。</p>	<p>朝夕の申し送り時や毎月のミーティング、休憩時間等、職員の意見をその都度聞き取り、利用者への支援や事業運営に反映させている。また勤務表は休みの希望を聞き取りながら作成しており、昼休みも休憩室でゆっくり身体を休めることができている。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>毎月1回運営会議を開き、施設長に職員全体の仕事への取り組みや要望、意欲等報告し理解、改善を頂く様になっている。また、職務分担にて働きやすく休み時間は色々な話題に笑い声もあり。</p>	

自己評価	項目	自己評価	
		実施状況	
13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護技術や知識をつけ自信を持って仕事ができるように全職員に外部研修の参加を勧めたり、勉強会などを開催して全職員に学んでもらえるようにしているが外部での研修がコロナウイルス予防の為受講出来ていない</p>	
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>以前は、包括支援センターが企画する認知症検索訓練等の交流や勉強会に参加し、仕事上での困難な事例や疑問に思うことを話し合い様々な意見交換していたがコロナウイルス感染症予防の為開催されず出来ていない。</p>	

自己評価	項目	自己評価	
		実施状況	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前から面接を行い、本人の困っていること、不安なこと、要望などを細かく聴き、入居されてすぐに馴染めるように環境作りに努めている。また、一人での時間を少なくするようになるべく話を傾聴する。</p>	
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族からの要望は、入居者様が馴染めるかが殆どであり、不安を抱かれないように、面会時には個別記録を掲示するようにしていたがコロナウイルス感染症予防の為電話での説明で信頼していただいている。</p>	
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の要望を理解した上で入居頂いているが必要な行政機関や他施設を紹介する事は考慮しているが現在までは殆どないが。なるべくできるだけの対応を行っている。</p>	
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様からは日々、職員も勉強になるような話なども多く聴かせて頂いている。出来ることはご自分で、出来ない時は一緒にに行い又、ご本人の前で行うなど信頼関係構築に努めている。</p>	

自己評価	項目	自己評価	
		実施状況	
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>無理のない程度に面会のお願いをし、居室でゆっくりしていただくなど配慮していたがコロナウイルス感染症予防の為現在は、手紙や電話活用している。</p>	
20	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族へ協力要請し、馴染みの場所や実家、墓参りなどへの外出を勧めていたがコロナウイルス感染症予防の為現在は、出来るだけされない様お願いしている。</p>	<p>コロナ禍で自由に面会できないが、これまでの関係が途切れないよう友人や知人、家族とは電話や手紙で交流を続けている。また、馴染みの美容室や病院に家族の協力の下で出かけるなどコロナ感染状況に合わせて対応している。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士が仲良く出来るように、職員が物事を共に進めるようにしている。ほぼ全員の方にて食材の下ごしらえ洗濯物たたみラジオ体操、レクリエーションなども行い共有の時間を設けている。</p>	
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院が長引く関係で退居された方等は、退院後も入院施設へ面会に行くなどして、安易に関係を断ち切らないようにしていたがコロナウイルス感染症予防の為出来ていない。</p>	

自己評価	項目	自己評価	
		実施状況	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人からの希望や意向、話や行動、または昔の出来事など様々な視点から感じ取り、何をしてほしいかを把握し、実行し介護に努めている。	入居前にケアマネージャーや医療機関と連携し情報収集を行い、入居後も日常会話や脳トレ等の活動を通じて会話する機会を増やすことで意見や要望を尋ねる機会につなげている。また難聴の方とはホワイトボードを用い筆談で意見を伺っている。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人のこれまで、どのように過ごしてきたか、どのような考えで生活してきたのかを把握その人らしく生活できるように努めている。	
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力を把握し、出来ることへの参加を勧め、達成感を感じていただけるように努めている。また、常に心身の状態を把握し健康管理に努めている。	
26	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のミーティング時に、施設長を含め職員で入居者様の課題、ケアについて話し合い今後の入居者様の生活が向上していけるように計画を取り入れている。また、家族の面会時には話をし意見をいただくようにしている。	本人家族の意向を基に毎月のカンファレンスやモニタリング、主治医の意見のほか、毎日チェックしている「ケアプランチェック表」も参考にしながらケアプランを作成している。また、本人家族の意向や身体状況に変化がみられた場合は速やかにプランを見直し修正している。

自己評価	項目	自己評価		
		実施状況		
27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録や業務日記に日々の様子をしっかりと記載するように話を行い、毎朝の朝礼や送り帳を活用し情報共有に努め、介護計画の見直しに努めている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>要望に応じて話し合いを設けていたが現在は新型コロナウイルス感染症予防の為に中止している。施設長（医師）より病院受診時の情報を紹介状にて提供を行い、本人及び家族への負担を無くすようにしている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>公園にドライブに出かけたり、地域にあるスーパーマーケットに買い物に行ったりしていたが、最近は新型コロナウイルス感染症予防の為に近隣の農作物、花、案山子見学等楽しんでいただいている</p>		
30	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医（母体が医療法人）との連携は常に行い月2回の訪問診療、緊急時の対応等万全を期している。協力歯科医にて義歯の調整、治療も行っている。</p>	<p>月2回の訪問診療が受けられる安心感から現在、利用者全員が母体医療機関をかかりつけ医としている。他科受診に関しては、家族と職員が協力して受診を支援しており、受診の内容は申し送り時に職員間で情報を共有している。</p>	

自己評価	項目	自己評価	
		実施状況	
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療管理が必要な利用者には、看護職員の意見を参考にし、全身状態の観察や管理に活かしている。医療連携導入にて週1回の和音看護師にて健康チェックに努めている。</p>	
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時より担当ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、状態を把握し早期退院に向けて協議を繰り返し実施している。</p>	
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に合わせ情報を家族、本人と共有し、対応方法を検討する。また役割を明確にし、だれが何をするのか本人は何が出来るのかを見極めた上で、主治医の指導の元、利用者の生命と安全を確保することを最優先した支援に取り組んでいる</p>	<p>「重症化対応体制に関わる事業所の指針」を準備し、入居時に急変時の対応や看取り同意書と共に説明し、入居後も状況に応じて都度説明と同意を得ている。これまでに看取りの事例は多くあり、家族や主治医、職員間で事業所での対応や支援について十分話し合いを行った上で看取りまでを支援している。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>施設長（医師）看護師等の指導により実技などを行い、全職員で知識を共有している。</p>	

自己評価	項目	自己評価		
		実施状況		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎年5回避難誘導訓練を実施している。また、災害時の避難について運営推進会議等で話し合いをし、地域の協力体制も整っている。</p>	<p>年2回夜間想定を含む火災訓練を消防署立ち合いの下で実施したほか、年5回自主訓練として通報手順や避難経路、避難誘導訓練を実施している。大雨による土砂災害の恐れがあるため、予め同法人の事業所を避難先として決めている。今後、備品として発電機の購入を予定している。</p>	

自己評価	項目	自己評価	
		実施状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルを作成し、個人情報の保護に努めている。職員に対しては日頃より言動に注意し、個人を尊重するように指導している。また勉強会でも取り上げて意識を高めている。	「プライバシー保護マニュアル」を準備し、年に数回内容を確認している。トイレ誘導時はプライバシーを損ねないよう、さり気なく声をかけたり、普段の言葉遣いや方言についても馴れ合いにならないよう気を配っている。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見を尊重し、納得のいく生活ができるように支援している。突出した要望や一方的な考え方の可能性も勘案した上で、納得できるように努力をしている。	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースを尊重し、無理強いやストレスがたまらないように支援している。また、本人の希望がある場合はできる限り努力をし実現出来るよう支援している。	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好みを伺い身だしなみを整えている。身だしなみに興味を持たない方に対しては、家族にて、衣類等を持参してもらいストレス解消に努めている	
40	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にも食事の下ごしらえや味見をしてもらい、協力動作として毎日実施している。また、食前にメニュー紹介をし食事への興味を持ってもらえるように努めている。	2週間分の献立表を基に調理しているが、利用者のリクエストに応じて随時メニューを変えることができたり、調理の下ごしらえや味見、盛り付けまでの一連の準備に利用者も参加するなど、家庭的な雰囲気ですり食事できるよう支援している。

自己評価	項目	自己評価		
		実施状況		
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>日々の健康状態や体重変動を見極め栄養のバランス、食事量、食事形態（普通食、刻み食、ミキサー食）などを考慮し食事を提供している。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>声掛けは全員にし一人ではできない方は、職員が口腔ケアを実施している。一人で出来る方には本人にしてみらうように進め、職員が義歯清掃は実施し、清潔を保つよう努めている。</p>		
43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>個々人の排泄ペースに合わせて支援している。排泄要求がない方は、時間ごとの誘導を実施している。排泄のサインを見落とさないように注意しながら対応を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導につなげている。尿意のある方は布下着とパットを使用するなど、なるべく排泄補助用品に頼らず、トイレで済ませられるよう支援している。清潔保持のため、ウォシュレット等により毎日陰部洗浄を行っている。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>自然排便で出てくるように水分、腹筋運動、食事などに気を付けている。それでも出にくい方に対しては、主治医に相談し必要なら緩下剤にてコントロールを行っている。</p>		

自己評価	項目	自己評価	
		実施状況	
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は毎週月・水・金9:30～11:30に実施している。入浴日を設定しているが、要望があればすぐにでも対応できるようにしている。	冬至にゆず湯を提供したり、仲の良い利用者同士で入浴するなど楽しく入浴してもらっている。また入浴後の皮膚ケアの徹底や水分補給としてレモンティーやコーヒー等、好きなものを選ぶようにしており入浴後の楽しみになっている。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の入眠時間に合わせて誘導を行っている。また、夜間安眠して頂く為に、日中はレクリエーションや外気浴、散歩を勧めメリハリのある生活を送ってもらえるように努めている。	
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の説明を行い、飲み忘れや誤薬がないように注意している。処方箋はファイルしており、いつでも確認出来る様にしている。	
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションや共同作業による生きがい作りの支援をしている。毎月の行事、趣味活動、手作り食品などを提供し刺激のある毎日を過ごせるように努めている。	

自己評価	項目	自己評価	
		実施状況	
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ収束後は家族への墓参りや実家への帰省などの協力を依頼したり、夏祭りや近くの公園などにも出かけたい。希望があれば検討し、実現できるように努力している。</p>	<p>コロナ禍のため現在は地域行事の中止や外出制限等により外出できない日々が続いているが、感染状況が落ち着いた昨年秋は、かかし祭り見物やコスモス畑に出かけるなど、久しぶりの外出を楽しみ気分転換を図ることができた。福祉車両やワゴン車もあるため、コロナ収束後は外出の機会を増やしたい意向である。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭は個人で持たず施設側で全て管理している。入居者様が必要な時は預かり金から支出している。</p>	
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望がある方には電話や手紙を出せるように支援している。また、必ず入居者様の要望を全て応えるように実施している。コロナウイルス感染収束後さらに実施予定。</p>	
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとに花を変えたり聴きなれた音楽を流したりと工夫している。趣味活動で作成されたちぎり絵や、書道などを掲示している。</p>	<p>天窓のあるフロアは明るく、利用者と職員が一緒に作った季節の作品や生花が飾られており和やかな雰囲気が感じられる。コロナ感染症対策として「換気チェックリスト」を作り、1日4回の換気の徹底と1日2回の手すりやドアノブ等よく触る箇所の消毒の徹底に努めている。またウッドデッキでの外気浴を楽しむ機会も設け気分転換を図っている。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人一人それぞれ自分の居場所があるよう、その場所を無くさないように配慮している。ソファの位置を考慮し、入居者様同士で集える空間なども提供している。</p>	

自己評価	項目	自己評価	
		実施状況	
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は、本人の使い勝手の良いものを持ち込んだり、使っていたもの、家族の写真などを飾ったり、思い思いに部屋の装飾をし過ぎしやすいように配慮している。仏壇も持参されている。</p>	<p>電動ベッドやエアコン、棚、クローゼットが備え付けられ、自宅から持ち込まれた仏壇等、馴染みの品を居室担当職員と共に動線や居心地に配慮しながら配置している。また、感染症予防として換気や加湿、消毒等こまめに行っている。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内の環境を整理し、怪我や事故を起こさないように配慮している。廊下、各居室、トイレ、浴室には手すりを設置している。個々人に合わせ介助、見守りなどを考慮し、なるべく自立できるように支援している。</p>	

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない